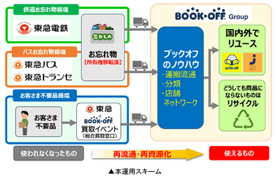
SDGs新聞	ブックオフグループホールディングス株式会社

電車やバスの忘れ物をリユース・リサイクル

SDGsラジオを読んでみよう！

電車やバスの忘れ物。持ち主が見つからなかったら、どうなるか知っていますか？
実は多くのモノが捨てられてしまっています。
そこで本の買取・販売でお馴染みのブックオフグループでは、東急電鉄、東急バスと連携して、忘れ物をリユース・リサイクルする取り組みを行っています。
保管期間が過ぎた忘れ物はブックオフで買取・販売され、使用できないものについては、資源としてリサイクルされています。
その結果、取り組み開始からの1年2か月で、たくさんのモノの命を延ばし、約21トンにものぼるCO2排出量の削減に貢献しました。
これこそまさに、SDGsの目標17番「パートナーシップで目標を達成しよう」にあたります。
一人ではできないけど、みんなと一緒ならできる「地球や人にやさしいこと」ってたくさんあるはず。
ちょっと話し合ってみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



▲本運用スキーム

▲ブックオフ風山事業所でのお忘れ物選別作業

画像参照：ブックオフと東急で忘れ物をリユース・リサイクル化する取り組み（東急公式HPより）

画像参照：東急スクエア ガーデンサイトでの不用品買取イベント

「本を売るならブックオフ」のキャッチフレーズでお馴染みのブックオフでは、東急電鉄・東急バス（以下「東急」）と連携し、「電車・バスの忘れ物」のリユース・リサイクルに取り組み、循環型社会の実現に貢献しています。東急ではこれまで一定期間が過ぎても持ち主が現れなかった忘れ物は廃棄処分していましたが、まだ使えるモノも多く、その処分が課題になっていました。そこでリユース・リサイクルのノウハウを持っているブックオフとの連携により、課題解決に向けての第一歩として、「忘れ物のリユース・リサイクルを図る実証実験」を行うことになりました。

この実証実験を通じてブックオフは、2021年12月からの１年2か月で、約8.2トンの忘れ物を東急から回収しました。そのうち約65%はブックオフの店舗に並び、残りは資源としてリサイクルした結果、焼却処分していたことで発生する二酸化炭素の排出を約21トンも削減できました。この実証実験で一定の効果を得られたことから、ブックオフと東急では現在、「忘れ物をリユース・リサイクルする取り組み」を本格的に進めています。また、ブックオフと東急は他にも、店舗に行かなくても不要品の買い取りができる、「不要品買取イベント」を東急沿線の施設で数回実施。合計約800件（約12,500点）の買取を行うなど、地球に優しいさまざまな取り組みを展開しています。

キーワード

循環型社会
資源を再利用・再生することで、資源のムダづかいと環境への負担を減らしていく社会のことです。

リユース
英語で「再利用」という意味です。使用済みの製品を廃棄せずに、繰り返し使うことで、資源のムダづかいやゴミの削減につながります。

二酸化炭素
空気中に含まれる気体で、CO2とも呼ばれています。地球温暖化の原因となる「温室効果ガス」のうち、約9割をこの二酸化炭素が占めています。

対象ゴール

みなさんにできること！

循環型社会を実現するためには、さまざまな方法があります。さらに理解を深めてみましょう。

おさらい

- ブックオフは交通事業者と連携して、忘れ物のリユース・リサイクル化に努めている。
- 企業間連携により、1年2か月の間で約21トンの二酸化炭素排出削減に貢献した。
- 駅前などで「不要品買取イベント」を不定期で実施している。

メモ

SDGsラジオ